



(鴻巣・水海道)

茨城・^{はぐろ}羽黒遺跡

- 1 所在地 茨城県猿島郡総和町前林字道場
- 2 調査期間 二〇〇〇年(平12) 十一月～二〇〇一年二月、二〇〇一年一月～二月
- 3 発掘機関 (財)茨城県教育財団
- 4 調査担当者 矢ノ倉正男・仙波 亨・平石尚和・島田和宏
近藤恒重・駒澤悦郎
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文時代～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

羽黒遺跡は、総和町の南東部に位置し、女沼川と向堀川に挟まれた猿島台地の標高約二二～一四mの台地平坦部と、低地に緩やかに移行していく台地縁辺部に立地している。調査は一級河川女沼川河川改修工事事業に伴うもので、二〇〇〇

年から二次にわたって実施した。その結果、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明した。なかでも古墳時代と奈良・平安時代、中世・近世にかけての遺構が中心である。

木簡は、第一次調査区で検出した中世以降と考えられる方形竪穴建物跡から出土した。この方形竪穴建物跡は、調査区の南西部に位置し、標高一三mの台地平坦部に構築されている。三基の土坑によって破壊されているため遺存状況はよくないが、長軸四・一七m短軸三・九五mの方形を呈する。壁の高さは一五cmで、床は全体的に軟弱で、部分的に踏み固められている。七カ所のピットと被熱によって赤変硬化した部分が確認されている。木簡は、北壁中央部の壁際直下から、墨書した面を上に向けた状態で、床面から約一〇cm上位の覆土から出土した。その他の遺物としては、混入したと考えられる縄文土器片六点と土師器片二五点、礫八点がある。

8 木簡の積文・内容



杉材で、右辺は割れて欠損している。五百二丈は約一五〇六mに相当する。内容や遺跡の立地状況から推測して、河川の改修や護岸工事、堤防工事などに伴う工事分担任を示す表示札と考えられる。時

期は中世から近世と推定される。

9 関係文献

(財)茨城県教育財団『羽黒遺跡』(茨城県教育財団文化財調査報告二〇
二、二〇〇三年)

(駒澤悦郎)

